

そもそもIDとは？

とよのんコンシェルジュにおいて、利用可能なIDは大きく2種類に分けられます。
各種に発行者別にIDがあり、これらは今後サービスの拡充に応じて、IDは増減される可能性があります。

ID種別	ID例
本人確認済みID	TRUSTDOCK社 デジタル身分証
自己申告ID	(IDとしての)E-mail DP社 MyDID ドコモ社 dアカウント などなど..

今回の説明は
主に**本人確認済みID**をど
のような時に使うか？に關
してお伝えします



※2022年8月29日現在の情報

IDをどこで、どう使うのか？

OZ1

全てのサービスや全てのIDを登録する必要はなく、利用者は使いたいサービスに必要なIDだけ登録することで、サービスを利用できます。

例えば、とよのんウォレットを使うだけであれば、必要なのはDP社 MyDIDのみとなります。必要なサービスに応じ、IDの登録を利用者はコントロールしていくことになります。

ID種別

本人確認済みID

自己申告ID

ID例

TRUSTDOCK社
デジタル身分証

(IDとしての)E-mail

DP社 MyDID

ドコモ社 dアカウント

アップル社 Apple ID

サービスの一例

行政サービス

ヘルスケアサービス

コンシューマサービス

とよのんウォレット

ドコモ社の各サービス

アップル社の各サービス

本人確認済みのIDを利用する具体的なシーンは？

ID種別	ID例	サービスの一例
本人確認済みID	TRUSTDOCK社 デジタル身分証	行政サービス ヘルスケアサービス

本人確認済みのIDは、一般的には行政サービスやヘルスケアサービス(病院や薬局等)などの、**本人であることを証明したうえで、受ける必要のあるサービスで求められます。**

行政サービスでも、名前や住所の記入のみならず、押印や免許証の提示などを求められるようなサービスが今後オンラインで利用可能になった際に本人確認済みIDで申請ができるようになります。
ただし、今も名前住所の記入だけで済む行政サービスは本人確認済みIDでなくても申告ベースで利用できる方向です。

ヘルスケアサービスも、今後様々なヘルスケアデータを併せたサービスの活用を視野に、本人確認済みIDで利用できるように設計中です。
本来は歩数だけであれば本人確認済みIDは不要ですが、今後のデータ分析などのサービスを視野に本人確認済みIDでの利用をお願いします。

正確な「あなた」を知って、なりすましではないご本人にサービスを行いたい場合に求められるのが本人確認済みIDです。

データ連携におけるデータの再活用って何？

OZ1

今まであちこちのサービスを利用する際に、サービスごとに都度、氏名住所年齢等を記載もしくは入力、またサービスごとにIDを作成することが常識になっていると思います。同じことを何度も求められるのは面倒ですよね。

データ連携基盤では登録するIDもなるべく少なくし、複数のサービスを同じIDで使えるようにしていきます。

その際に、ログイン後に他のサービスでも使えるようにIDを連携する時に「認証」が求められます。

認証を行うことで、同じIDで複数の他のサービスが使えるようになります。ただ、ひとつのIDで世の全部のサービスが使えるわけではありません。

世に使われているFacebook IDやgoogleアカウントで他のサービスが利用できるようになる技術と同じです。技術的にはOpenID Connect(OIDC連携)といいます。OIDCはユーザーの「認証」(あなたは誰)と「認可」(アクセスしていいよ)までをやり取りの上で許可してくれる規格です。

また、データを預けた会社以外から、

「あなたのデータを活用してサービスしたいのですが…」

とデータの再活用を求められた際、

「使っていいよ、サービスしてください」

と相手の希望や願いを受け入れ、許可、受諾をする行為を「許諾」といいます。

今後のサービス連携時に問い合わせが来ますので楽しみに待っていてください。

コンセプト

本人確認サービスを提供し続けてきたTRUSTDOCK。公的身分証が持つ本人確認の効力をオンラインの世界に持ち込み、財布やポケットに身分証がなくても便利に暮らせる世の中にしたい。



特徴

- ・ 信用 : 本人確認を行ってから発行・提供される(本人確認済みIDの位置づけ)
- ・ 便利 : 信用できるから、ID/パスワードなしでログインに使える
- ・ 安心 : 個人データ(氏名、生年月日、住所、性別)提供時は同意取得画面を提供

作り方

「作成ガイド」に詳しい手順あります→
<https://biz.trustdock.io/digitalidguide/app/idcreation>



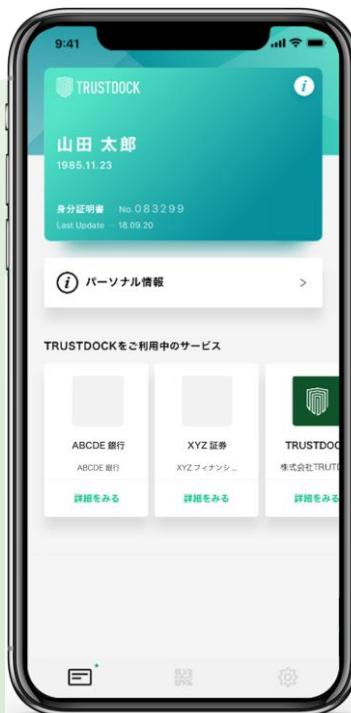
デジタル身分証が選ばれるポイント

Q1

②セキュリティの向上



デジタル身分証利用時には
TRUSTDOCKアプリを用います
が、これ自体の当人認証機能によ
りセキュリティが向上します。



①7種類の公的身分証に対応



マイナンバーカード、免許証等、
7種類の公的身分証からデジタル
身分証作成が可能で、**デジタル・
デバイド対策**にも有効です。

- | | |
|-------------|-------------|
| ✓ 運転免許証 | ✓ 住民基本台帳カード |
| ✓ マイナンバーカード | ✓ 在留カード |
| ✓ パスポート | ✓ 特別永住者証明書 |
| ✓ 運転経歴証明書 | |

③同意管理・法律への対応



TRUSTDOCKアプリで同意の確
認・取得を行い、その履歴も確
認可能。個人情報保護法にも対
応しています。

④信頼できるデータの連携



本人確認済データ(氏名、生年
月日、住所)を連携できるので、
自己申告ベースより信頼できる
データが活用できます。

⑤グローバルスタンダード技術を採用

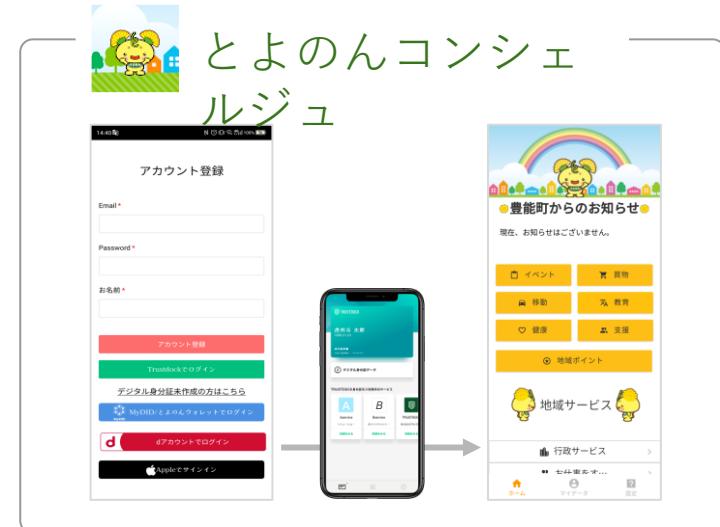


GAFAを始めとする有力企業等
にも選ばれているOpenID
Connectという技術に対応し、
安全性と柔軟性を持ち合わせた
情報連携が可能です。

デジタル身分証導入事例とユースケース

Q1

ID/パスワードなしでログイン



既存IDに本人確認済状態を付与

(企画・開発中)

ヘルスケア系
事業者アプリ

より便利な機能の開放etc.



デジタル身分証の組み込み時は以
下を提供

- ・技術文書
- ・API
- ・テスト環境
- ・開発サポート窓口

リアルとオンラインの融合

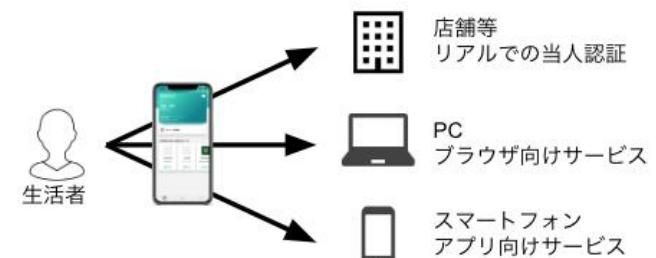
(例示)

施設予約等手続きのオンライン化



(例示)

デジタル身分証を共通IDと
して提供





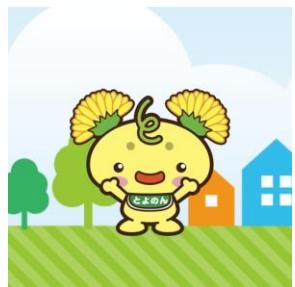
MyDIDの作り方

→「とよのんウォレット」の登録で「MyDID」が自動で生成される

「とよのんウォレット」登録時のメールアドレスと「MyDID用パスワード」を使って様々なサービスを受けることができる。

MyDIDでできること①

「とよのんコンシェルジュ」へのログイン



今後、「とよのんコンシェルジュ」以外のサービスも、MyDIDでログイン可能にすることを目指す。

MyDIDでできること②

地域ポイントの利活用(23年1月～開始予定)



各種スマートシティのサービス利用でポイントが溜まり、MyDIDを使ってとよのんウォレット上で使える商品券やデジタル通貨に変換することが可能に。

MyDIDで実現できること(将来の構想)

Q1

現状

各サービス連携

ネクストステップ

将来構想

とよのんコンシェルジュ
ログイン



コンシェルジュに
ログインして
各サービスを利用

スマホ内のお財布
とよのんウォレット活用で
お得がいっぱい



- ・プレミアム付き
デジタル商品券
- ・豊能町独自の
ポイント利用

MyDIDひとつで
様々なサービスに
ログインが可能

イベント
健康
教育
支払

MyDIDでログイン
すればサービスごとに
ID / PASSを設定する
必要がない

TBD